

命の重さ

(原文)

二村 葵 (14 歳)

静岡県

不二聖心女子学院中学校

「産んでくれてありがとう」

私が、この言葉を初めて親に伝えたのは、今年の誕生日の時でした。

私は今まで、誕生日は自分が祝ってもらう「だけ」の日だと思っていました。しかし、ある動画を見て、そうではないことに気づきました。もちろんたくさん祝ってもらえる日ではありますが、その分私も、一生懸命私を産んでくれた親に感謝の気持ちを伝えたいと今年になって初めて思いました。

また、私は昨年命の大切さ、私が今ここにいること、いられることの重大さを知りました。きっかけは神父様のお話です。

私が通っている学校には「祈りの会」という行事があり、そこで神父様のお話をうかがいます。昨年、初めて「祈りの会」に参加し、いくつかのお話をうかがう中で一番心に響いたのが、「全ての出会いは奇跡なんだ」というお話です。

そのお話からは、自分の先祖がもし戦争や殺人によって亡くなっていたら、今ここに自分という存在がなかったということ、今私がここにいられることは奇跡だ、ということを知りました。反対に、もし戦争や殺人がなかったら、自分の隣にいたかもしれない命があったはずだということも知り、今ここにいられること、普通に生活できていることは、決して当たり前のことではなく、とても幸せなことだと気づきました。

私に限らず、今、実際私の隣にいる人も同じです。みんなが生まれてこられたことは、奇跡であり、とても幸せなことです。そして、その軌跡で生まれた命と命が会うことは、本当にすごいことだということにも、気づくことができました。

私は今までの生活の中で、友人関係で悩んだことや、自分の選択を後悔することがありました。でも、そこに自分の命があり、相手の命もあったからこそ生まれた悩みや後悔だったと思うと、とても大切なものだと思えるようになりました。自分の中でずっともやもやしていた部分を、理解することができた瞬間でした。

ひとつの命には、その子供や孫というように、たくさんの命がつながっています。そして、そのたくさんの出会いや経験がつながっていきます。だから、うばって良い命などひとつもないのです。

私は、神父様のお話を通してそう感じるようになり、そして、もっとこのことを多くの人に知っても

らいたいと思うようになりました。

どうしたら多くの人に伝えられるのだろうと考えてみたところ、最初に書いたように、「産んでくれてありがとう」という気持ちを実際に伝えてみようという考えにいたりました。

誕生日の当日、こっそり感謝の手紙を置いておきました。すると、母からも手紙が届いていました。そしてその中には、お祝いの言葉と共に、産れた直後の私の写真が入っていたのです。初めて産んでくれた感謝を伝えたいと思ったとき、偶然にも、初めて出産の時の写真をもらい、これもまた奇跡だと感じました。その後、改めて直接感謝の言葉を伝えながら、涙が止まりませんでした。

今はまだ、私のできることは、このようなどても小さなことしかないかもしれません。しかし、まずは自分が身近にいる人に伝えることで、少しずつ周りの人に広まっていき、少しでも多くの人が命の大切さについて考えるきっかけになったら良いなと思います。

そして、大切な命が奪われることのない、平和な世の中になって欲しいです。